

会派視察・研修報告書

会派名 政友会

代表者名 吉田 企貴

1 日 に ち	令和 7年 7月 25日 (金)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	岡山県岡山市北区問屋町15番地101 協同組合 岡山県卸センター
3 参 加 者	吉田企貴、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	『問屋街の空きスペースを活用した 他にはない開放感のある街の魅力の創出』について
5 主な内容	①2000年に定款を変更され問屋町が変わるきっかけになったとのことだが、主な要因は。 ②以前は卸売業しか団地内に進出できなかったとのことだが、それを小売業やサービス業、不動産業卸売業以外の業種も受入可能、また居住は不可だったのも変更し、居住もできるようになった経緯は。 ③100%が組合や組合員の所有だった土地が現在は約 60%とのことだが、今後の方向性はいかがか。 ④問屋町に住んでいる人をターゲットにするとともに、外から問屋町へ来てもらうことが目的のイベントについての取り組みと課題はいかがか。

6 所感、提言事項、
課題等

【加藤 智章】

1. 視察概要

令和5年に創立60年、団地完成55年を迎えた協同組合岡山県卸センターを訪問し、その歴史的経緯、発展の歩み、現在の課題と今後の展望について学びました。

問屋町として全国的にも注目を集める取組は、多治見市における産業振興・都市機能整備を考えるうえで参考になりました。

2. 転換と新たな発展

平成12年、組合定款を改正し、卸売業以外（小売業、サービス業等）の入居を可能に。

その結果、個性的な店舗や事務所、マンションが混在する「商業スポット」として成長し、全国的にも例を見ない街として注目を集めている、他業種との連携が成功したと思います。

平成30年には「問屋町テラス」がオープンし、地域に新たな賑わいを創出。

3. 課題と対応

発展に伴い、長時間の路上駐車や交差点付近での違法駐車が顕在化。駐車場整備や交通マナー啓発に取り組むも、抜本的な解決には至らず。現在は行政と連携し、道路や用水の活用も含めた抜本的対策を検討している。

4. まとめ

行政との協働による都市整備

岡山市が街区や道路整備を行ったように、企業団体と行政が一体となったまちづくりは、多治見市における産業観光地区や陶磁器団地の整備に活かせると考えます。

ブランド発信と交流拠点の創出

「問屋町テラス」のような新たな商業・交流拠点は、多治見の陶磁器文化や地場産業を広める仕掛けとして「プラティ」や駅周辺の開発に参考にすべきだと思います。

協同組合岡山県卸センターは、卸団地の枠を超えた商業・居住・交流の融合によって「街そのもの」を形成し、全国的に注目される事例となっています。

多治見市においても、既存産業の枠を超えた複合的なまちづくりと、行政と企業の協働が今後の発展に欠かせない事だと思います。

【吉田 企貴】

視察先をざっくり総括すれば、「特徴的な街並みを活かした地域活性化」でした。具体的には、画一的な繊維問屋街と、路駐を前提とした街路整備によって、問屋街としての役割を終えつつある中で不動産価値が上昇したという事例と考えます。

7 写真等

※視察の場合は必須、
研修の場合は任意



問屋町グランドデザイン(案)

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。